

# 沖縄に行ってきた マース た!!

## ～火星大接近 2018～

熊森照明（大阪府堺市）

### ○はじめに

惑星観測をしていると、惑星の詳細が見えるかどうかは、シーイングと呼ばれる大気の気流状態の影響が大きいことが分かります。

日本で気流状態の良い場所は亜熱帯に属する沖縄だと言われており、2018年7月の一月間、沖縄に望遠鏡を持ち込んで、15年ぶりの大接近を迎えた火星を観測撮影しました。

### ○観測場所

山などがあると雲が湧いたり、気流が乱れたりする可能性があるのですが、独立島や山のある沖縄本島の北部を避けて、沖縄本島南部の糸満市に民宿を借りました。

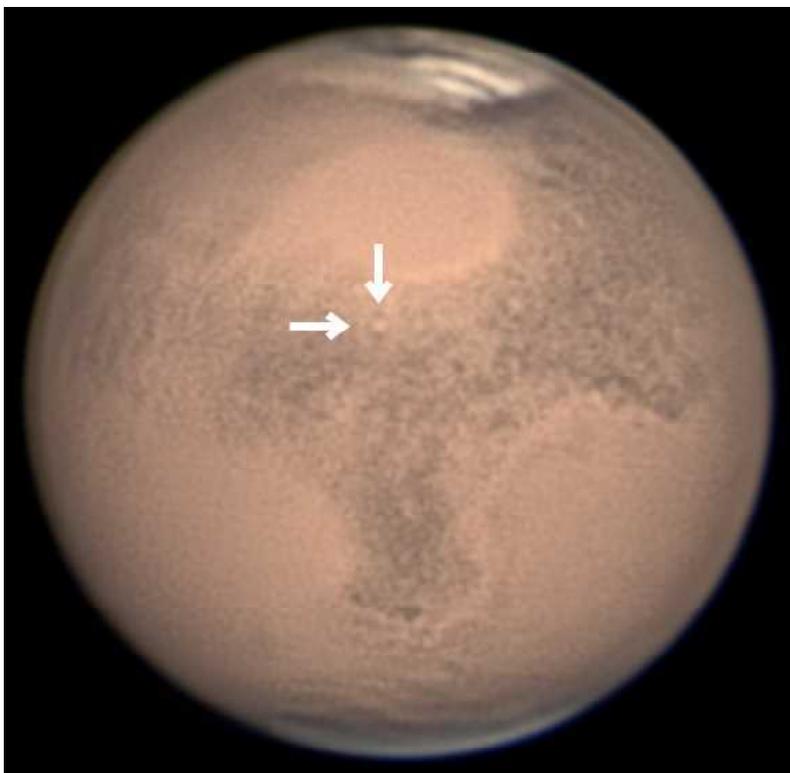
### ○毎週台風

異常気象の2018年夏でしたが、滞在中の7月には台風4個が沖縄に接近し、うち一つは沖縄本島に上陸しました。

もちろん台風がない時は晴れるのですが、晴れていても白い雲が常に流れていて、沖縄には「雲一つない快晴」がありませんでした。

### ○シーイング

沖縄には「惑星が微動だにしないシーイング」があるとされているのですが、残念ながら、



滞在中の一月間にはありませんでした。しかし、堺でのベストクラスの気流は時々あり、画像処理をすると惑星面の詳細を捉えることができました。

### ○大黃雲

大接近に合わせてように、火星には5月30日にダストストーム（砂嵐）が発生し、瞬く間に火星全球を覆い尽くしました。7月の火星はダストに覆われていて、残念ながら有名な模様も淡くにし見えませんでした。

### ○サヘキクレータ

大黃雲で模様が良く見えない中、惑星観測の大先輩「佐伯恒夫」さんの名前が付いている、直径85kmのクレータを捉えることができました。

火星面に捉えたサヘキクレータ（矢印）

2018年7月26日 C14:口径35cmのシュミット・カセ  
PCカメラによるLRGB合成 沖縄県糸満市にて撮影